



上智大学創立 100 周年
 上智短期大学創立 40 周年
 上智社会福祉専門学校 50 周年



学生食堂

No. 32

1. 快適な学生食堂



学生食堂の充実を求める声が高まる中、2005 年 4 月に竣工した 2 号館の 5 階に学生食堂がオープンした。開放的な窓から広がる緑豊かな都心の景観を楽しみながら、ボリュームと栄養のあるメニューを手ごろな価格で楽しめる。また、約 600 席を擁するダイニングにはテラスがあり、屋上でも食事ができる。目の前には眞田濠の土手に卒業生が植えた桜、その先には迎賓館や新宿の高層ビルといった東京の街並み、そして遠くには富士山も一望できる。



この学食は、レストラン「銀座スエヒロ」の子会社が運営しており、スエヒロの得意とする鉄板メニューが出ることもある。人気メニューは、「鶏唐揚げのふわとろ丼」(360 円)。鶏肉のから揚げを親子丼に仕立てたもの。最近ではヘルシーメニューにも力を入れており、惣菜の盛り合わせ(410 円)などを提供している。また、お金がないのでランチを控えるという学生の声を聞いて、特別メニューとし

て、山盛りのピラフなどを数名でシェアできる「メガ盛りプレート」(600 円)もはじめた。2 号館 5 階の学生食堂の別のセクションでは日替わりのスパゲティなどを提供しており、学生の多様なニーズに対応すべく努めている。

このほか、9 号館地下と 11 号館地下に学食がある。9 号館のカフェテリアでは、インド人シェフによる本格的なインドカレーセット(サラダ、ナン、ラッシー付で 450 円)が看板メニューになっている。11 号館地下のラウンジでは、季節によってフレーバーの変わるソフトクリーム(180 円)を販売。夏の桃、秋の焼き芋などのフレーバーが人気だ。



最初の学生食堂(1954 年)

2. 学生食堂の歴史

上智大学の最初の学生食堂は、戦後 1953 年に開設された。朝霞の陸軍予科士官学校の建物を払い下げて作った建物の 1 階を改装して、800 人を収容できる「カフェテリア」として利用した。場所は、現在のクルトウルハイム横のメインストリートに位置していた。この建物は、1960 年にイエズス会教授館の建設のために取り壊された。

1957 年には、収容人数 500 人の学生食堂が上智会館にできた。最初は学生寮の食堂であったが、学生の人数が増えるにつれて、1969 年頃から一般学生にも開放されるようになった。

しかし昼食時に長蛇の列ができるようになり、混雑緩和を求める学生の声が強まった。そのため、1977 年には 9 号館地下に「カフェテリア」が誕生し、1980 年に完成したホフマンホール(学生の課外活動の拠点)にも喫茶室ができた。1992 年に 11 号館が竣工すると、地下に



カフェテリア内部
 アイスcreamなども提供していた

「11 号館ラウンジ」という学生食堂も併設された。そして 2005 年の新 2 号館の竣工に伴い、長年親しまれた学生食堂と共に上智会館は取り壊され、新たな学生食堂は大型のテラス付になった。

背景には、混雑解消とメニューやサービス改善を求める学生の声だけでなく、学生食堂は単に食

事をする場所ではなく、豊かな学生生活に不可欠なコミュニケーションの場としても重要だという認識が高まったことも影響している。

2011年4月には、学生アンケートの結果をもとに、学内の3つの食堂とホフマンホール喫茶室が一斉にリニューアルされた。ホフマンホールには日本サブウェイ（株）によるサンドイッチカフェが入り、9号館地下カフェテリアと11号館ラウンジは(株)LEOCが運営している。